

本郷台中だより

31 学校だよりNo.6
令和元年9月2日
文京区立本郷台中学校
校長 齊藤 正富

目標を達成させて、課題を克服しよう

目標を一つ一つ達成させて、自信につなげよう

4 4 日間の夏休みが終了しました。この夏も、連日猛暑に見舞われましたが、本校においては、事故や事件に巻き込まれた情報はなく、それぞれの生徒は、適度な緊張感をもって諸活動に参加していました。また、地域の行事等において、生徒が地域の皆様にお世話になり、家庭では保護者の皆様にはしっかりと見守られて生活できていることが感じられた夏休みでした。

本日の始業式においても、それぞれの生徒が充実した夏休みを過ごしたことが感じられました。2 学期の授業日数は1 2 月 2 5 日までの8 2 日間です。この間に修学旅行、学習発表会など、さまざまな行事も予定されております。日頃の授業はもちろん、行事への取り組みを通して、掲げた目標を一つ一つ達成させることで、生徒は自信をつけていきます。私たち教職員は、その達成状況を適正に評価しつつ、次のステップに意欲をもって進むことができるよう、2 学期も指導と助言を続けてまいります。

また、明日から2 週間、すべての教員で分担して、生徒と面談を行う「ハートフル・ウィーク」の期間を設定しました。面談では、生徒から夏休みのことや2 学期に向けての意欲などについて話をしてまいります。保護者の皆様には、ご家庭でのお子様の様子をご覧になって、いつもと違うと感ずることがございましたら、どのようなことでも担任等にご連絡をいただきますようお願いいたします。

さて、私は、この夏休みも生徒の活動を見せてもらう機会がありました。中でも、8 月 5 日（月）から3泊で実施した八ヶ岳岳林間学校をはじめ、野球部の活動に多く関わりました。

この夏、昨年以上に河川敷のグラウンドなどでの大会や他校との練習試合等を通じて、暑さに負けず、砂埃にまみれてがんばる子どもたちとの時間を過ごす中で、せっかく頑張っているのに、もったいないと感ずることがありました。課題の中の一つは、『指示されたことはできる。しかし、同じ場面であっても指示がなければ何もしない（できない）』ということです。私たちは始め「〇〇しなさい」と指示しますが、次に同じような場面でも何もしない時には、「どうして〇〇しないのか」と言い方が変わります。子どもたちにとっては、「〇〇すること」は、自分がやることなのだと思わせたかったのですが、言葉が足りませんでした。経験から学習して、次に生かす力が一層必要です。指示する側も、よりわかりやすい言葉を用いて指導してまいります。

他に、練習や試合で多少きつい場面になると、その場面を乗り越えようとせずに諦めてしまう。あるいは、仲間と力を合わせて、何が何でも乗り越えようとする気持ちが弱いということです。確かにきつい場面では、自分の力不足が原因で乗り越えられないことが少なくありません。しかし、大切なことはその後、さらに努力を積み重ねて乗り越えることです。自分の努力だけで乗り越えられない時には、周りとの力を合わせることで乗り越えられることもあります。周りとの力を合わせるためには、お互いを信頼できるかが土台になります。「このくらいでいいや」と思って、努力を積み重ねていないと思われてしまえば、周りからの信頼は得られません。逆に、目標を共有している仲間が、信頼の上にそれぞれで積み重ねた力を合わせることで、予想以上の成果につながることもあります。

さまざまな可能性をもつ子どもたちですが、諦めてしまえば、その可能性はゼロになります。本校では、この2 学期も、すべての生徒の可能性を信じて、その努力を支援してまいります。

これからの2 学期、3 年生は、いよいよ進路選択の時期。保護者の皆様と一層綿密に連携しながら、一人一人の生徒の適性に応じて、細やかな部分まで行き届いた進路指導に努めてまいります。

1 年生、2 年生は、部活動だけでなく、生徒会活動でも3 年生からバトンを引き継ぎ、よりよい活動を展開していく責任が大きくなります。本校に入学以来、着実に成長してくれている子どもたちですから、その責任を果たしてくれるはずで、ますますがんばる本郷台中学校を2 学期もどうぞよろしく願いたします。